

ふたりの桃源郷

【登場人物】

秀樹

まさみ

岡内／警察

秀樹 やつた。（泣く） ……やつたよ……
まさみ やればできるんだよ、銀行強盗だつてなんだつて。

秀樹 ……

秀樹は床に落ちている札を拾い集めて、急いでカバンにしまう。

秀樹がドアを開けて大きめなカバンを抱えて走り込んできて、そのまま倒れこむ。

秀樹は息を切らしている。

秀樹 行こう。
まさみ ……

秀樹 こんな汚い田舎に用はない。裏に車停めてあるから。

まさみ うん。

チヤイムが鳴る。

秀樹・まさみ ……

そこに、まさみが現れる。

まさみは手袋をはめて、別のカバンをひきずつている。

もう一度チヤイム。
「すみませーん」という声。

まさみ やつた？

秀樹 やつた。俺やつたよ。

まさみ よかつた。私も。（とカバンを男に見せる）

まさみ （秀樹を見る）
秀樹 ……

もう一度チャイム。

「すみませーん」という声。

まさみ ……

秀樹 ……

もう一度チャイム。

「すみませーん。いるのはわかつてるんですよ。話し声きこえてましたから。」という声。

まさみ (秀樹を見る)

秀樹 …… (少し逃げようとする)

「逃げてもムダですよ。どうしても出てこないなら、ドア壊しますよ。」という声。

少しの沈黙。

秀樹 (大声で) すみませーん。今出まーす。

まさみ 秀樹……

秀樹 大丈夫、大丈夫だよ。

秀樹はドアを開ける。

秀樹 すみません。トイレにいたもので、岡内 失礼します。わたくし、北警察署の岡内といいます。

秀樹 警察、

二、三伺いたいことがあるのですが。

秀樹 ああ、なんでしょう。

秀樹 このあたりで不審な人物を見ませんでしたか。

秀樹 さあ……?

秀樹 ……。

秀樹 見てないと思いますね。

秀樹 そうですか。

秀樹 すみませんね、

秀樹 そちらにいるのは奥さんですか?

秀樹 え? ええ、まあ、

秀樹 奥さんにも伺いたいことがあるのですが。

まさみ なんでしょう。

岡内 料理はお上手ですか。

まさみ はい?

岡内 料理の腕には自信がありますか?

まさみ はあ、言うほどではないですが、多少は。

岡内 それはよかつた。

岡内が土足で上がり込んでくる。

秀樹 え、あの、
岡内 お腹がすきました。
まさみ はい?
岡内 腹減った!
秀樹 あの、すみません、これから用事があるので。
岡内 何か調べられるとマズイものもあるんですね。
秀樹 いえ、ですから用事があるんですよ。
岡内 私は知っているんですよ。
秀樹 え?
岡内 あなたが何をしたのか。
秀樹 。。。
岡内 腹減ったなあ。
秀樹 。。。
岡内 私は取引をしてるんですよ。
秀樹 。。。
まさみ 。。。
秀樹 (まさみに) 何か作つてやれ。
まさみ はい、
まさみは去る。

岡内 奥さんの料理は?
秀樹 。。。うまいです、
岡内 それはよかつた。
秀樹 どこまで……?
岡内 はい?
秀樹 どこまでご存知なんですか?
岡内 。。。さあ。
秀樹 まさみが現れる。
まさみ あ、あの……カツブ麺しかないんですけど。
岡内 は?
まさみ すみません、食材を切らしてて、
岡内 。。。
まさみ すみません、
岡内 いいですよ。
まさみ すみません。
岡内 じゃあ、よろしくお願ひします。(立ち上がって歩き
出す)
秀樹 あ、どこへ?
岡内 (立ち止まって振り返る) トイレ、こっちでいいです
か。
秀樹 はい……

岡内 どうですか。
秀樹 はい?

岡内は去る。

秀樹 …… そうだよ。

まさみ なに？

秀樹 取引だよ。

まさみ ？

秀樹 さつき取引って言つてたじやないか。

まさみ なんの？

秀樹 だから、

まさみ なに？

秀樹 飯食わして……金だよ、金、金渡せばいいんだよ。

まさみ でも、（男のカバンを抱くようにして）これは私たち

の金だよ。

秀樹 しようがないだろ！ お前ここで捕まつたら終わ

りなんだぞ！

まさみ この金取られても終わりじやないか！

秀樹 だから……

まさみ なに……

秀樹 あれだよ……睡眠薬。睡眠薬まだ余つてないか。

まさみ ……ある。

秀樹 あいつに飲ませんだよ。

まさみ どうやつて？

秀樹 だから、（やや怒鳴り声で）碎くかなんかしてカツプ

麺に混ぜればいいだろ！

まさみ そんな怒らないでよ、あたしも混乱してんだか

ら！

秀樹 くそ、

まさみ ……

秀樹 なんなんだよあいつ、

まさみ ……

秀樹 こんなにすぐ警察が来るなんて、

まさみ どうすんの？

秀樹 わかんねえよ。

まさみ だつてマズいよ、

秀樹 ……。

まさみ ねえちよつと？

秀樹 ……。

まさみ ちやんと考へてる？

秀樹 今考へてんだよ！

まさみ そんな怒鳴らないでよ、

秀樹 お前はいつもそうだよ。困つたことは全部俺に
押し付けて、

まさみ 今はケンカしてる場合ぢやないでしょ。

秀樹 誰のせいでケンカになつてんだよ！

まさみ わかつたけどどうするか考へないといけないで
しょ！

秀樹 だから、

まさみ なに？

秀樹 いいからとにかく行けよ！

まさみ でも睡眠薬飲ませてどうすんの？

秀樹 わかんねえよ！ 飲ませてから考えるんだよ！

まさみ ……

秀樹 行け。

まさみ はい……！（去ろうとする）

岡内が現れる。

岡内 あれ、もうカップ麺できました？

まさみ あ……あの……すみませんこれから、

岡内 お願ひします。

まさみ はい。

まさみは去る。

岡内 うん、働き者だ。いい奥さんですね。

秀樹 ええ、

岡内、警棒を抜く。

警棒をいじりながら、歩き回る。

岡内 お名前は？

秀樹 え？ あー、山田です。

岡内 山田さん、人は、なぜ犯罪を犯すのか、わかりますか。

秀樹 さあ。

岡内 それはね、何かが欲しいからですよ。

秀樹 ……。

岡内 食べ物が欲しい、金が欲しい、快感が欲しい、あるいは安らぎが欲しい。

秀樹 ……。

岡内 欲しくて欲しくてたまらないのに、どうしたって手に入らない。そんなとき、人は犯罪を犯すんです。

秀樹 ……。

岡内 あなたは一体何が欲しいんです？

秀樹 ……あなたこそ何が欲しいんです？

岡内 ……。

秀樹 人ん家入つて食べ物要求して、これ犯罪ですか？

岡内 あなたは何が欲しいんです？

秀樹 食べ物ですよ。

岡内 ジやあ、食べたら帰つてくれます？

秀樹 ……失礼。食べ物だけじゃありません。私はすべてが欲しい。食べ物も、金も、権力も、全て欲しい。

しかしね、私が一番欲しいのは自由。何者にも邪魔されない自由ですよ。

秀樹 ……。

岡内 あの奥さんとは、どこでお知り合いに？

秀樹 僕もあなたと同じですよ刑事さん。僕も自由が欲しい。なにものにも邪魔されない二人だけの自由が。

岡内 ……。

秀樹 僕はこれから桃源郷に行くんです。だからここで捕まるわけにはいかないんですよ。

岡内 かつこいい拳銃だ。

秀樹 ……。

岡内 どこで手に入れたんです？

秀樹 さあ？

岡内 おもちや屋ですか？

秀樹 ……。

岡内 （自分の胸ポケットに手を入れて）こつちは本物ですよ。

秀樹 ……。

岡内 秀樹 刑事さん、僕には欲しいものを手に入る資格はないんですか。

岡内 欲しいものを手に入れるためには、知恵が必要なんですよ。

秀樹 （カバン抱き込むようにして）刑事さん、

岡内 ……。

秀樹 これね、全部はダメなんです。全部はダメなんですよ。

まさみ ちょっと。

秀樹 いいんだよ！（岡内に）あの、全部はダメなんです

よ。全部はダメなんんですけど、（カバンを開いて、金を取り出す）百万。

岡内 ……。

秀樹 （更に金を取り出して）二百万。

岡内 ……。

秀樹 （更に金を取り出して）一千万。

岡内 ……。

秀樹 悪い話じやないとと思うな。

岡内 ……バッグ、何入つてるんですか？

秀樹 見りやわかるでしょう。

岡内 いや……（女のバッグを顎で示して）そっちですよ。

秀樹 なんだしようね？

岡内 失礼しました。（帰ろうとする）

秀樹 え、え、なんです？

岡内 帰るんです。

秀樹 ……。

岡内 食べ物もないし。

秀樹 やだなあ。そりやないですよ。

岡内 ……。

秀樹 教えたら、一千万、受け取ってくれます？

岡内 いいですよ。

秀樹 ……（女のバッグを指差して）ノコギリ……。

秀樹 と、私の妻です……。

岡内 ……。

秀樹 一千万、受け取ってくれます？

岡内 ……。

秀樹 それとも、刑事さんも、（バッグの中に）入ります？

岡内 ……。

秀樹 なんつって、

岡内 いいんですよ。あなたが入つても。

秀樹 ……。

岡内 （札束を受け取つて、少し笑つて）ご協力、感謝します。

岡内は去る。

秀樹 やつたよ。俺やつたよ。

まさみ ……。

秀樹 これで、ふたりだけの、夢の生活ができるんだ。

まさみ ……行こう。

秀樹 ちょっと待つて、

まさみ なに。

秀樹 なんか、腰ぬけちやつて。

まさみ はあ？

秀樹 いや、あの、あれ？

まさみ 先に車に積んどく。

秀樹 おう。

まさみ （車の）キー。
秀樹 おう。（渡す）

チャイムが鳴る。

秀樹・まさみ ……。

もう一度チャイム。
「すみませーん」という声。

まさみ （秀樹を見る）
秀樹 ……。

もう一度チャイム。
「すみませーん」という声。

まさみ （入口付近で相手を伺う）……。

秀樹 ……。

もう一度チャイム。

「すみませーん。ドア開けますよ。」という声。

まさみは男のカバンを持って去ろうとする。

秀樹 おい……

まさみ だからあんたはドンくさいんだよ、失敗作！

警察は去る。

まさみは去る。

秀樹 ……。

秀樹 え、あ、（まさみをを追おうとするが腰が抜けて動けない）
くそ……。

少しして、残されたカバンが目に入る。
秀樹はカバンを少し開けて、カバンに語りかける。

警察が現れる。

秀樹 なあ……俺も行くよ。

警察 失礼します。わたくし、北警察署の岡内といいま
す。

秀樹 ……。

警察 ここに妙な人物が訪ねて来ませんでしたか？

秀樹 はい……？

警察 最近、こちらで警察を装った人物が家に押し入つ
て食べ物を要求する事件が起きているんですが。

秀樹 ……。

警察 ご存知ありませんか。

秀樹 ……いや……

警察 そうですか。（秀樹に近づいて小声で）どうも私の名
前を使つて犯行を行つているようで、こつちはひどく
迷惑しているんです。（戻つて）もし見かけましたら署
の方までご連絡ください。ご協力感謝します。

作・小佐部明広

——幕